

平成30年度 猪名川町・小学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

猪名川町内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

猪名川町内の公立小学校5年生の児童
調査対象教科は、国語・算数

■ 調査日

平成30年4月17日（火）

■ 調査結果

【小学校の調査結果】

		猪名川町全体 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	目標値 (%)	全国平均 との差	受験者数
小学校 5年生	国語	69.9	72.9	68.9	▲ 3.0	366
	算数	64.4	64.8	67.4	▲ 0.4	366

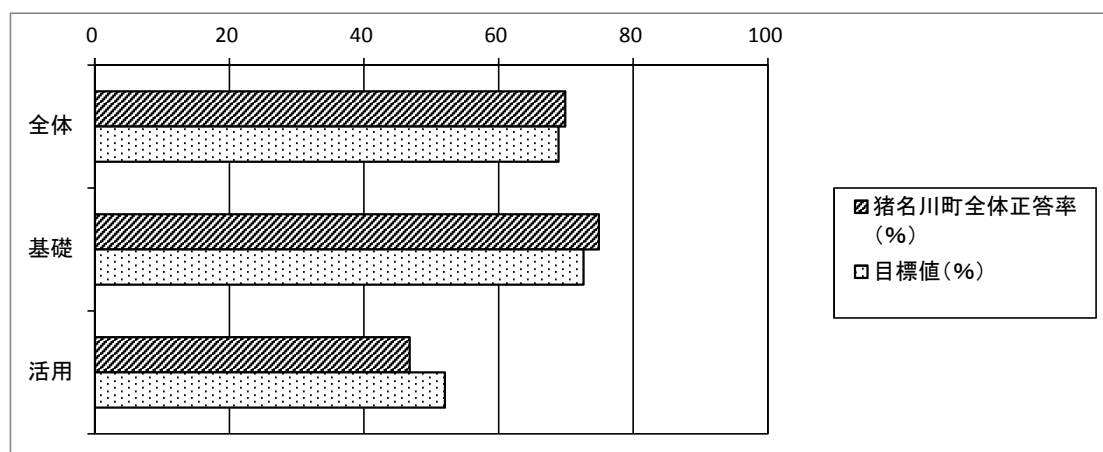
※「目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

町全体の正答率は、国語・算数ともにほぼ目標値と同程度である。

■小学校5年生 国語

(1) 基礎・活用正答率

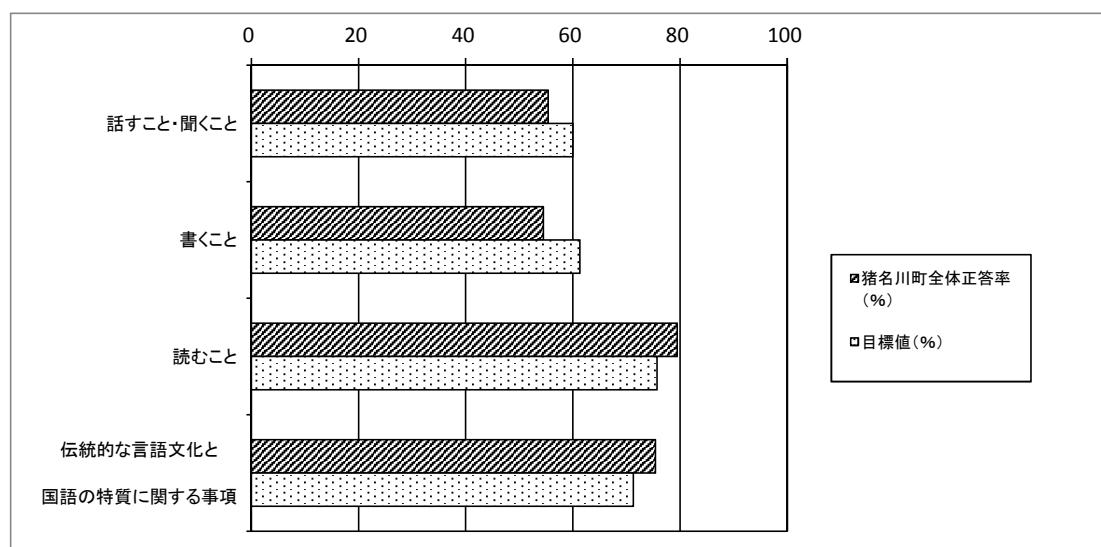
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	69.9	74.9	46.8
目標値 (%)	68.9	72.6	52.0
目標値との差	1.0	2.3	▲ 5.2



基礎・活用別に見ると、基礎問題は74.9%と目標値を2.3%上回っている。活用問題については、46.8%と目標値を5.2%下回っており課題がある。

(2) 領域別正答率

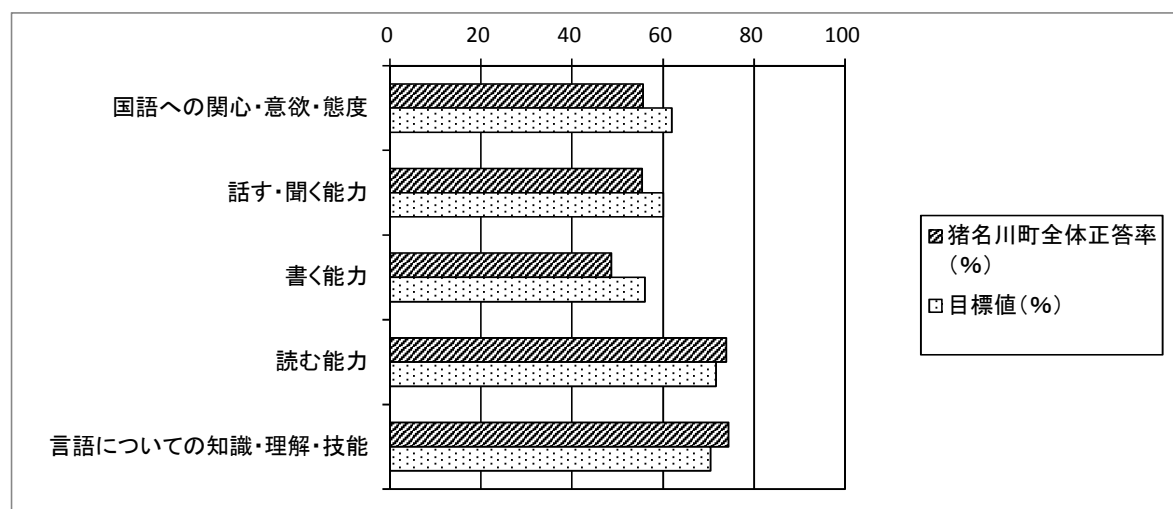
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
猪名川町全体正答率 (%)	55.4	54.5	79.5	75.4
目標値 (%)	60.0	61.3	75.7	71.3
目標値との差	▲ 4.6	▲ 6.8	3.8	4.1



領域別に見ると、昨年度は全ての項目で目標値を上回っていたが、今年度は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の項目で目標値を下回り課題がある。

(3) 観点別正答率

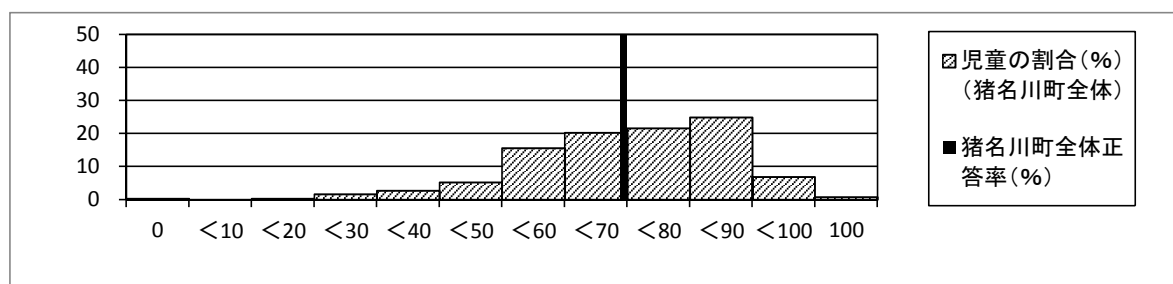
	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
猪名川町全体正答率(%)	55.6	55.4	48.6	73.9	74.4
目標値(%)	61.9	60.0	56.0	71.6	70.4
目標値との差	▲ 6.3	▲ 4.6	▲ 7.4	2.3	4.0



観点別に見ると、昨年度は全ての項目で目標値を上回っていたが、今年度は「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」の項目で目標値を下回り課題がある。

(4) 正答率度数分布

正答率(%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
児童の割合(%) (猪名川町全体)	0.3	0.0	0.3	1.6	2.7	5.2	15.6	20.2	21.6	24.9	6.8	0.8



町全体で、正答率80%以上の児童が32.5%と、昨年度の42.2%を下回ったが、正答率50%未満の児童は10.1%と、昨年度同様良好である。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(3)

【話し合いの内ようを聞き取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	27.6	40.0	▲ 12.4	34.7	▲ 7.1
出題のねらい	司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることができる。				
対策	本問を通して、司会者が話し合いの参加者の意見を確実に理解しておくことの重要性に気付かせたい。普段の話し合いの場で、各参加者の発言内容を確実に理解するために、どうすべきか(例:話の内容をメモするだけでなく、話し手の意図を聞き取ろうとする)、複数の意見をまとめるときにはどのように工夫すべきか(例:共通点や相違点を明確にする)、話の展開をどのように収束させたり発展させたりすべきかなどに留意させる。参加者に、自分の話し方や聞き方をメタ認知する習慣を身に付けさせることも必要である。				

大問3(2)

【言葉の学習】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	23.8	35.0	▲ 11.2	33.8	▲ 10.0
出題のねらい	文の構成(連用修飾語)について理解している。				
対策	どの言葉がどの言葉を詳しく説明しているのかという文の構造について理解することは、文章を書くときや、文章の内容を正しく読み取るときにも必要である。視覚的に分かりやすい、言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構造を理解させることが大切である。また、簡単な文の空欄に、さまざまな修飾語を入れる練習を積ませることも有効である。				

大問5(3)

【説明文の内ようを読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	70.5	75.0	▲ 4.5	73.1	▲ 2.6
出題のねらい	段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。				
対策	段落の役割を理解するためには、①段落ごとの内容を理解しながら、②文章全体で何を主張・説明しているのかを把握した上で、③段落が主張・説明のためにどのような働きをしているのかという視点で価値付けをしなければならない。正答できない児童が、①から③のどの段階でつまづいているのかを分析した上で、適切な指導をする必要がある。普段の授業で、段落ごとの内容を簡潔にまとめる習慣、接続語や段落の書き出しの一文に注目して段落相互の関係性を確認しながら読み進める習慣を身に付けさせておきたい。				

大問7

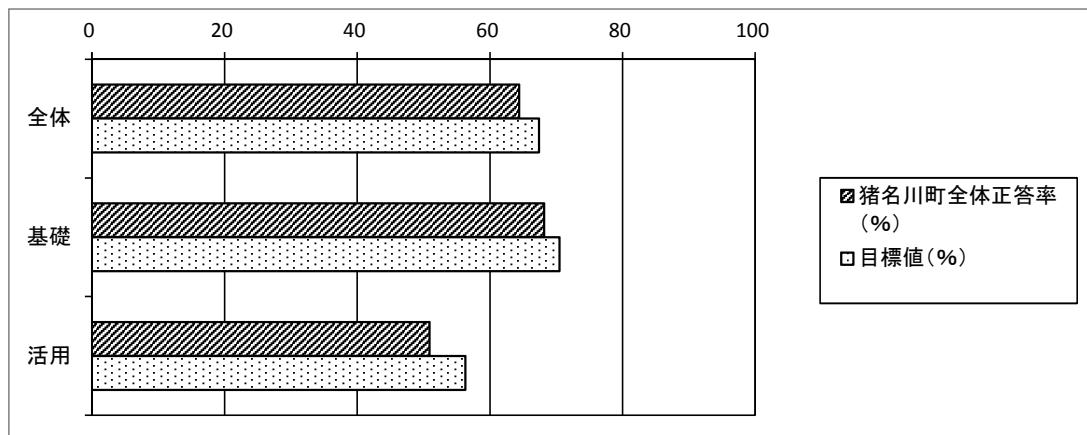
【作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	57.0	70.0	▲ 13.0	68.2	▲ 11.2
出題のねらい	指定された長さで文章を書くことができる。				
対策	ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くかという見通しをもつことが必要になる。本問では、そうしたヒントが(注意する点)になっている。これを参考にすることで、第一段落と第二段落に何を書かなくてはならないかが分かる。また、児童にとって、書くことの学習で難しいことの一つに、文章の書き出しが挙げられる。問題文にある文言(本問では、「クラスの児童を対象に、図書室の利用についてのアンケート調査」など)を使えば、書き出しが簡単にできることを、繰り返し指導して習得させたい。				

■小学校5年生 算数

(1) 基礎・活用正答率

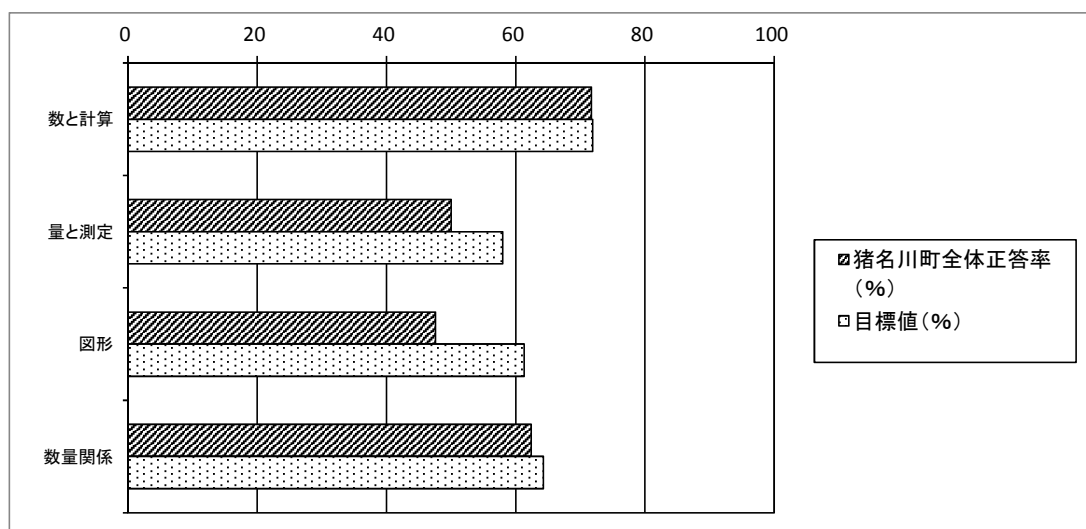
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	64.4	68.2	50.9
目標値 (%)	67.4	70.5	56.3
目標値との差	▲ 3.0	▲ 2.3	▲ 5.4



基礎・活用別に見ると、基礎問題は68.2%と目標値を2.3%下回り、活用問題は50.9%と目標値を5.4%下回っている。

(2) 領域別正答率

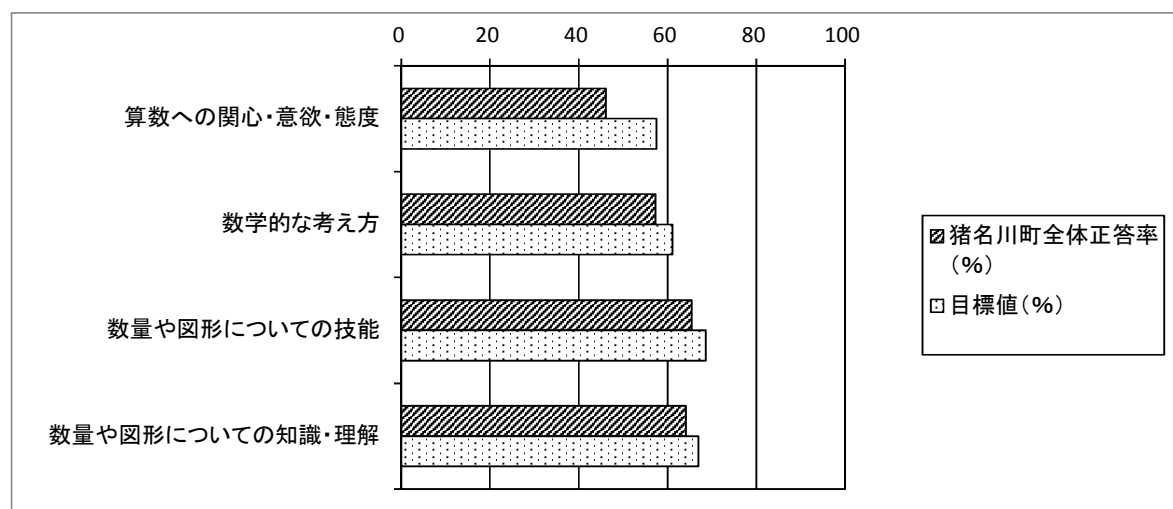
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
猪名川町全体正答率 (%)	71.7	50.0	47.6	62.4
目標値 (%)	71.9	58.0	61.3	64.3
目標値との差	▲ 0.2	▲ 8.0	▲ 13.7	▲ 1.9



領域別に見ると、すべての項目が目標値を下回っており課題がある。

(3) 観点別正答率

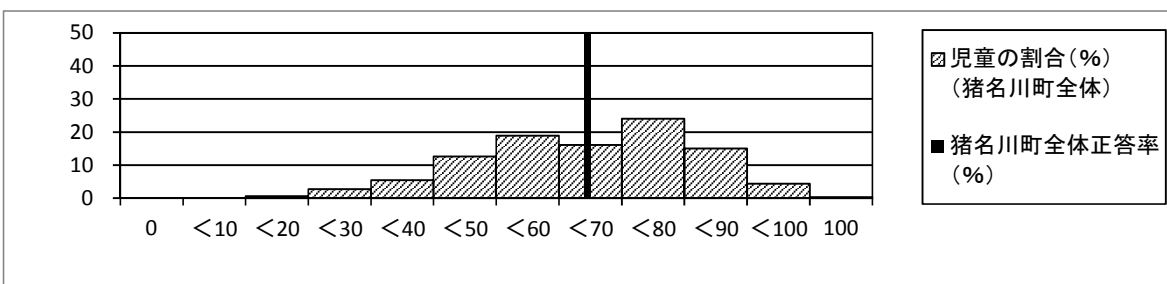
	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
猪名川町全体正答率(%)	46.1	57.3	65.4	64.1
目標値(%)	57.5	61.1	68.6	66.9
目標値との差	▲ 11.4	▲ 3.8	▲ 3.2	▲ 2.8



観点別に見ると、すべての項目が目標値を下回っており課題がある。

(4) 正答率度数分布

正答率(%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
児童の割合(%) (猪名川町全体)	0.0	0.0	0.5	2.7	5.5	12.6	18.9	16.1	24.0	15.0	4.4	0.3



町全体で、正答率80%以上の児童が19.7%と、昨年度の35.7%を下回っている。
また、正答率30%未満の児童は3.2%と、昨年度の4.9%より減少しており良好である。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(9)

【小数】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	60.4	70.0	▲ 9.6	62.7	▲ 2.3
出題のねらい	小数第二位÷整数＝小数第二位(商が純小数)の計算ができる。				
対策	小数÷整数では、商の小数点の位置に注意する必要がある。ポイントは、商の小数点の位置を、被除数の小数点の位置に合わせるということである。筆算の練習を繰り返し行い、計算の仕方をきちんと習得させる必要がある。				

大問12(2)

【いろいろな形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	28.4	50.0	▲ 21.6	36.7	▲ 8.3
出題のねらい	四角形の対角線の性質を理解している。				
対策	図形では、定義や性質、作図を学習する。四角形では、作図の後に対角線の性質について学習するが、新しく学習した対角線の性質を利用して作図することを通して、対角線についての理解を深めることができる。特にひし形は、対角線から作図すると簡単にかける。このように定義や性質を活用して作図することで、図形への理解を深めさせたい。				

大問18(2)

【面積】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	4.0	30.0	▲ 26.0	4.5	▲ 0.5
出題のねらい	面積を2等分にするには直線をどれだけずらせばよいかを説明することができる。				
対策	本問では、ちはるさんとお姉さんと2人で1つの部屋を使うという場面を基に考えなければならないが、算数的に見ると、長方形の面積と縦の長さが決まってい、横の長さを求めるという単純な問題である。日常の問題を算数の問題として捉えるには、解決に必要な条件を見いだすこと、算数の問題として解決し、その結果を日常の問題に戻して適切かどうかを考えることが必要となる。日頃から、この過程を意識しながら指導することが大切である。				

大問19(2)

【億と兆・がい数の表し方】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	14.1	35.0	▲ 20.9	22.3	▲ 8.2
出題のねらい	四捨五入する位によって、概数で表した値が異なることを説明することができる。				
対策	同じ数を概数で表しても、どの位で四捨五入したかによって結果は異なる。問題文の指示に従って四捨五入させるだけでなく、どの位で四捨五入すると、問題場面において適切であるかを考えさせたい。また、対話的な学習活動を取り入れ、児童自身が説明する場を設けることも大切である。				